

8月8日 市民懇談会

《岩手西北医師会》

新型コロナウイルス感染症第2波のさなか、日々緊張感と危機感をもって対応されている『岩手西北医師会』と初めての市民懇談会を行いました！

今冬、インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の同時流行、低湿度に伴う感染症発生率の増大が懸念される状況下、今回は、市内の医療機関が閉院することなく、私たち市民が安心して持病の治療ができる対応方法はもちろんのこと、日ごろの医療活動の課題、市民の健康づくりに向けた取り組みなど、多くのご意見をいただきました。今後も継続的に、さまざまな情報と意見の交換を行い、議会活動に反映させていきます。

《要約》

活発な意見交換を行うため議会から、市内医療機関の駐車場に動線区分を目的とした簡易テントを設置、その中で新型コロナとインフルエンザの抗原定性検査（行政検査）を行う方法を提示しましたが、医療機関の人的資源や安全対策、検査技術の信頼性等から対応困難であるとの意見をいただきました。今後は、国や県の動向を踏まえ、更なる対応方法を模索する必要があると思います。

また、休日当番医について、経済性や医療従事者の確保から諸課題が確認されているため、継続的な協議が必要との意見もいただきました。



岩手西北医師会（医師5名、事務局2名）



活発な意見交換が行われました！

市長へ 提言書を 提出

『市民が安心してかかりつけ医に受診できるため』の提言書

インフルエンザと新型コロナウイルス感染症との同時流行で医療現場が混乱することも予想される今冬、市民一人ひとりが、3密回避、手洗いの徹底などの一般的な感染症予防をしっかり行うことはもちろん、自分も新型コロナウイルスに感染しているかもしれないという意識を持ち、人にうつさない工夫、マスク着用、不要不急の外出自粛などを積極的に行うことが必須であると考えます。

一方、国においては、8月28日に「新型コロナウイルス感染症に関する今後の取組（対策パッケージ）」が示され、抗原検査やPCR検査等の検査体制の更なる強化、医療体制整備の再構築、保健所の即応体制の整備および治療薬・ワクチンの供給等に取り組んでいます。

さらに、本市においては、県と一体となって、「かかりつけ医等に相談・受診できる体制の整備」、「地域の医療機関での検査体制構築」の具現化に不可欠な“感染症に正面から向き合う、かかりつけ医の意志”をできるだけ早期に醸成することが最重要課題であると考えます。

そのためには、今までの感染症対応に関して、適時に県や県医師会からの情報提供が受けられていない岩手西北医師会に対して、本市から目に見えた早期の積極的支援行動を示すべきです。

以上を踏まえ、別紙のとおり岩手西北医師会との速やかな協議とともに、適切な予算措置を図るよう提言します。



岩手西北医師会と一体となって「かかりつけ医等に相談・受診できる体制の整備」「地域の医療機関での検査体制構築」に向けた取り組みを早急に進めるよう、10月5日（月）右の提言書を市長へ提出しました。

（別紙）

1. かかりつけ医等に相談・受診できる体制の整備

- (1) 相談・受診できる市内医療機関を把握するため、“感染症に正面から向き合う、かかりつけ医の意志”の事前確認が必要です。
- (2) かかりつけ医での受診体制において、N95マスクなどの防護具の在庫状況、今後の必要量に対する供給方法等の事前検討が必要です。
- (3) 受診に対し必要となる医療機関での動線区分方法、必要資器材及び人員配置計画等の事前検討が必要です。

2. 地域の医療機関での検査体制構築

- (1) 国の対策パッケージでは抗原の定性検査（簡易キット）を推奨しているが、医療機関の人員体制、偽陰性の確立が高いこと等により岩手西北医師会より対応困難であると評価されているため、事前協議、調整が必要です。
- (2) あらゆる検査ニーズに対応できる環境整備を図るため、唾液によるPCR検査に対応できる民間の検査研究機関を模索するとともに検査能力、検査費用及び梱包方法等の事前情報収集や協力協定の締結が必要です。

以上

常任委員会 所管事務調査紹介

滝沢市は、滝沢市総合計画後期基本計画の展開戦略として「健康づくり」「若者定住」を掲げています。

滝沢市議会では、市への提言を行うため今回は「若者定住」を総務教育・環境厚生・産業建設の3つの常任委員会の共通テーマとして設定し、所管事務調査をしています。

なお、共通テーマとは別に他の調査も実施している委員会もあります。

委員会	調査項目名称
総務教育 常任委員会	○若者による課題掘り起こし及び魅力発見の取組について
環境厚生 常任委員会	○若者定住に向けた子育て環境（保育）について
産業建設 常任委員会	○若者定住のための生活基盤と産業基盤の整備について ○交通弱者のための移動手段の確保について

産業建設常任委員会報告

調査事項	大釜駅、巣子駅の駐車場の利便性向上について
調査理由及びその目的	大釜駅、巣子駅については、当初、駅の利用者の利便性を高めることを目的として、パーク＆ライド方式の駐車場を設置しており、現在はその目的を十分に果たしていると捉えている。一方、常に満車状態にあるなど課題も見受けられ、その要因及び解消方法を調査し、駅の更なる利便性の向上に向けた今後の在り方について研究を行う。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ●両駅駐車場においてパーク＆ライドの目的以外と思われる利用車両が多くあり、慢性的な満車状態の要因の1つと考えられる。 ●現状のまま運営すると長年に亘り不正利用対策費や維持管理費が掛かり続け、現状の満車状態や不正利用解消の課題解決は難しい。 ●駐車スペース増設の計画案の他、時間貸しや月極等による運営も考慮し、工事費や5年、10年先の維持管理費も含めた試算のシミュレーションを行った。現状と試算の収支を比較した結果、一定の初期投資費用は要するが、歳入増加と共に長期的な維持管理コストの抑制になる事が期待される。 ●現状のパーク＆ライド目的とそれ以外の利用も想定した維持管理運営には、公平性を考慮し、受益者負担を検討する必要がある。

